

野火止用水路跡

Cover Story

構内を分断するように南から北に走る「野火止用水」
分水路跡地の手入りがほぼ終わりました。

およそ360年前、新田と生活用水に利用するために
引いた分水路は「日本最古」の分水路だそうです。
今回は分水路の経緯や歴史云々ではなく、先人が
築いた分水路跡を少しだけ手入れしましたので、
往時を偲んで歩いて頂きたくご案内します。

今年の4月半ばから手入れ作業を始め、約1ヶ月の
作業でしたが、作業中に「狸」とも出会い、また明らか
に分水路工事の段階で人の手が加えられたであろう
石が出てきたりもしました。電気も発動機もない時代
に、先人たちが鍬や「もっこ」で流した汗で築かれた
分水路跡を今また、汗を流しながら手入れをしている

と数十年前の飲料水の「壘」や様々な年代を感じるものが出てきました。笹やシュロ、木々を伐採し、台風で倒れた
大木や朽果てた老木が水路を塞ぐなか作業を進め、振り返ると確かに用水路の跡が「緑のトンネル」の中に出現し、
先人の苦労の一端に関わったような気がします。

やや大げさではありますが文化的遺産である用水路跡、それが今「木漏れ日の小道」の如き姿を現しました。

運動部の喚声や自動車の騒音も良く聞こえる小道(水路跡)ですが、落葉を踏みしめてゆっくりと振り向きながら
「緑のトンネル」を歩いてみてください。

(Yazawa)

＊今回は本校用務員さんである矢澤さんにご寄稿いただきました。矢澤さんは、みなさんが気持ち良く
学校生活を送るのに必要なさまざまな環境整備をしてくださっています。そのため、この広大な本校の
敷地内を隅々まで把握されています。

カルガモのヒナ

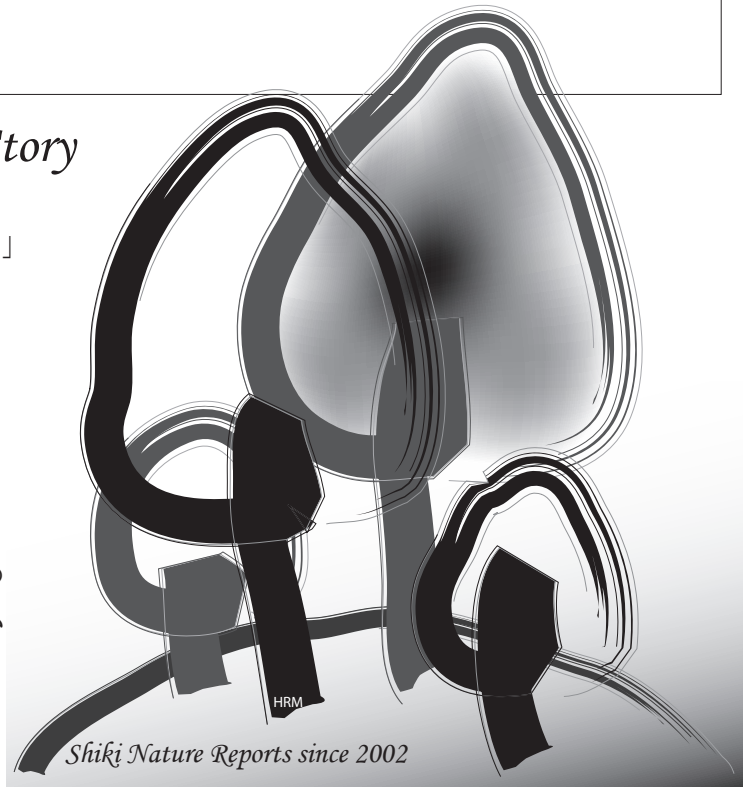
Animals

昨年8羽生まれたカルガモのヒナは1週間後には4羽に、今年11羽生まれたヒナは1ヶ月後に3羽に減つ
た。特に2～3羽がまとめて死ぬという事態は、野生状態では異常なので、鳥インフルエンザの可能性も
考慮して保健所や埼玉県環境部での調査を依頼したが、結果は陰性だった。そもそもカルガモの仲間
は鳥インフルエンザのキャリア(保菌者)とはなりにくい上、万一鳥インフルエンザだった場合には生
き残っているヒナがいること自体ありえない。それでは一体何が原因なのか？

ここ数年、本校のカルガモは手厚く保護されている。しかし、池から出られないことは、ネコやカラス
などの捕食者からの攻撃を避ける一方、多様な餌を摂取できずに成長が異常に遅れるという問題を引き起
こしている。それに加えて、エサが毎日あることを察してか、カルガモの成鳥が数羽訪れて親鳥と小競
り合いを繰り返し、ヒナがそのとばっちりを食っている。つまり、同じ種が減少の原因となっている可
能性がある。

これらを思うと、ヒナの数「保護」というヒトの好意が引き起こした環境変化のバランスの上で微
妙な増減を繰り返しているような気が、最近しているのである。

(Miyahashi)



次の天文イベントは？～金星食（相当地味です…）

今年は5月21日の「金環日食」があってサングラスを買って見た人も多かったのではないのでしょうか。続いて6月6日の「金星の太陽面通過」も大盛況でしたが、関東地方は生憎の天気でほとんど見られませんでした。では次の天文イベントは何でしょうか。

残念ながら金環日食はしばらくありません。調べてみると次は2016年9月1日にアフリカ南部からマダガスカルで、北半球に絞ると2019年12月2日にインド洋から東南アジア、日本に限ると2030年6月1日北海道で…となるようです。皆既日食は今年もう一度あるのですが11月14日（試験勉強の最中？）のオーストラリア北部から南太平洋です。では金星の太陽面通過はというと次回は2117年です。こうなると生存している人のほうが稀でしょう。

現象としては上のものよりも相当地味になりますが「金星食」なるものが今年の8月14日に起こります。これは金星が月に隠されるという現象です。ということは現象が起きている間、金星は見えないということなのですが…。ただし今年の金星は条件が良いのです。図のように、去年の金星の日出時の高度角でも（日の出の頃、金星が最も高く見えます。古くから「明けの明星」とよばれています。日が完全に出ると太陽が明るくて金星は見えなくなります。）地平線から高度20度以下でしたが、今年は7月から12月までずっと地平線から20度以上の高さまで上がります。金星食のある8月中旬ごろの日出時は地平線から40度もの高度に金星があります。（3年生の地学選択者→8月15日が西方最大離角です。）

金星食の時間は早朝2時44分に潜入し3時30分に出てきます。見どころは当然、潜入時と出現時です。だってその間は金星が見えませんか。ただペルセウス流星群の名残で（極大は12日）もしかすると食の間に流れ星がたくさん見られるかもしれません。寝苦しい夜もこの日は少しばかりましになるかもしれません。

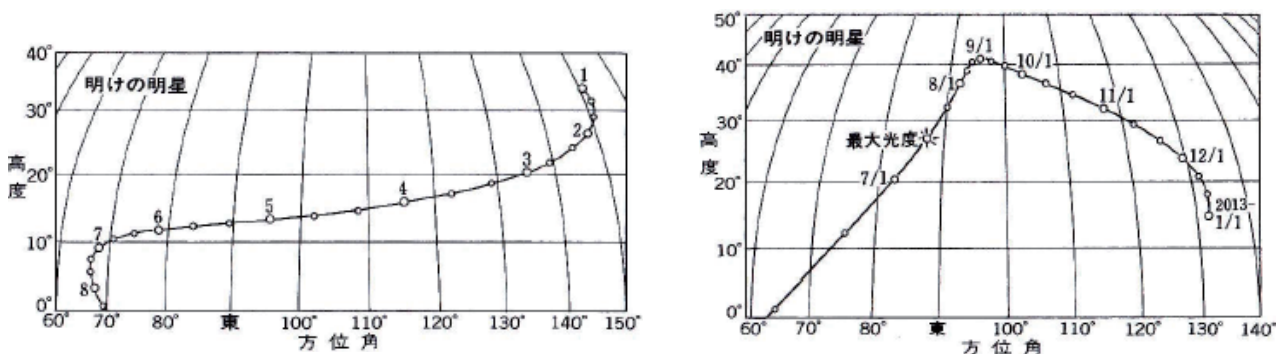


図 日出時の金星の高度と方位角(東京) (左)2011年、(右)2012年 (資料)天文年鑑

(Higuchi)

風わたる

Wa-ka

あふち咲く外面(そとも)の木蔭露落ちて 五月雨晴る風わたるなり

藤原忠良 新古今・夏234

風の歌。「あふち(棟)」(オウチ=センダンのこと)の紫の花を風が吹き抜けていく。五月雨が上がった。空も明るくなった。風によってオウチの水滴が払われる。風がオウチを吹き、露を払い、五月雨を降らせた雲を払って吹き抜ける。あとには木蔭の向こうに明るい空が見えた。風によって世界が変わっていく様子を詠んでいる。風に払われたオウチの滴の美しさ、風の爽やかさ、ぱらぱらという音、空の色。結句の「なり」は「音(ネ) あり」から来たことばで音から何かを推測することを原義とする。ぱらぱらと露を払う音を風わたる根拠としている。➡

ここ数年、校内のケムシの大発生が問題となっている。昨年も、食堂前のソメイヨシノなどの桜に発生し、木は秋を待たずして丸坊主となった。このケムシはモンクロシャチホコというガの幼虫で、桜の木に集団発生する典型的なガであることがわかった。

今年もおそらくケムシの発生があるだろうと、学校は薬剤散布の用意をしているわけだが、可能ならそれは避けてほしいと考えている。

かつて、アメリカシロヒトリという外来のガが日本へ入り、大発生し話題になった。このガは1匹の雌が800個もの卵を産み、それが数週間で成虫になり、また卵を産むことで、東京など限られた地域でしか見られなかったものがまたたく間に全国に広がって、その脅威的な増殖ぶりが問題視されたのである。しかしそれも最初の数年のことであった。生態学的には、卵の99%以上は、鳥やスズメバチ、クモなどによる捕食や寄生、病気などで成虫までたどり着けないことがわかっている。アメリカシロヒトリの場合、新参者は捕食者にまだエサとして認知されていなかったからということだろう。

志木高のケムシはどうか。死亡率が99%といっても、最も死亡率が高いのは中、老齢幼虫あたりで、このくらいまではけっこう生き残るらしく、それが人の目に触れ、気色悪いモノが大群で押し寄せてきたといった感覚をもたせるのだろう。

しかし、毒をもつものでもなく、これによって桜が枯れるわけでもない。誣いて言えば人に不快感をもたらすということか。

それをちょっと我慢できるなら、志木高の場合、スズメバチもクモも鳥もいるし、まだ生態系が機能しているのだから、それに任せるのが最も効率的ではないだろうか。生態系が失われた都市部の公園などは、もはや薬剤散布に頼らざるをえないかもしれないが、志木高の場合、いずれにしてもケムシは生き残れないわけで、それをあえて薬剤を使うのは、目立たないうちに殺すという、単に死ぬタイミングを早くするという意味でしかない。言うまでもなく、薬剤散布は確かにケムシも殺すが生態系も消滅させる。もはや生態系を失った都市部ならともかく、せつかく機能する生態系のある志木高では、その代償は大きすぎると思うのだが。

昨日、数年ぶりに校内でニホンミツバチの営巣を確認した。さっそく目の前で、オオスズメバチとの攻防戦を繰り広げていた。

校内にこのようなすばらしい生態系がまだある志木高だからこそ、それをぜひ上手に生かし生活することで、これから人類がとるべき道を世に示すべきではないだろうか。

(Izawa)

➤ 関東地方も梅雨入りし、夏休みが始まる七月二十日頃まで雨の季節がつづく。梅雨のことを五月雨と呼ぶのは旧暦では五月に梅雨が重なっていたからだが、同じ理由から「五月晴れ」ということばには新旧二つの解釈が生れた。旧暦では梅雨の晴れ間、新暦では五月の爽やかに晴れ渡った空を指す。冒頭の歌は梅雨の晴れ間を詠んでいる。

オウチの花について清少納言は次のように述べている。「木のさま憎げなれど、棟の花いとをかし。かれがれに様異に咲きて、かならず五月五日にあふも、をかし」とある。「かれがれに様異に咲き」はオウチの花の咲く様子を描写したもの。清少納言は五月が好きだった。「節は五月にしく月はなし。(中略) 紫の紙に棟の花、青き紙に菖蒲の葉細く巻きて結び、また、白き紙を根してひき結ひたるも、をかし」(枕草子)とある。旧五月五日は今年でいうと六月二十四日にあたる。

志木高にもソフトテニスコートの脇にオウチの木があったが、数年前に伐られてしまった。現在は畑から野球場に通じる道の脇に小さなオウチが一本だけある。オウチは成長速度の非常に速い木だということから、遠からずまた紫の雲のような花を見ることができよう。

(Hayami)

志木の自然[卯月(4月), 皐月(5月), 水無月(6月)]

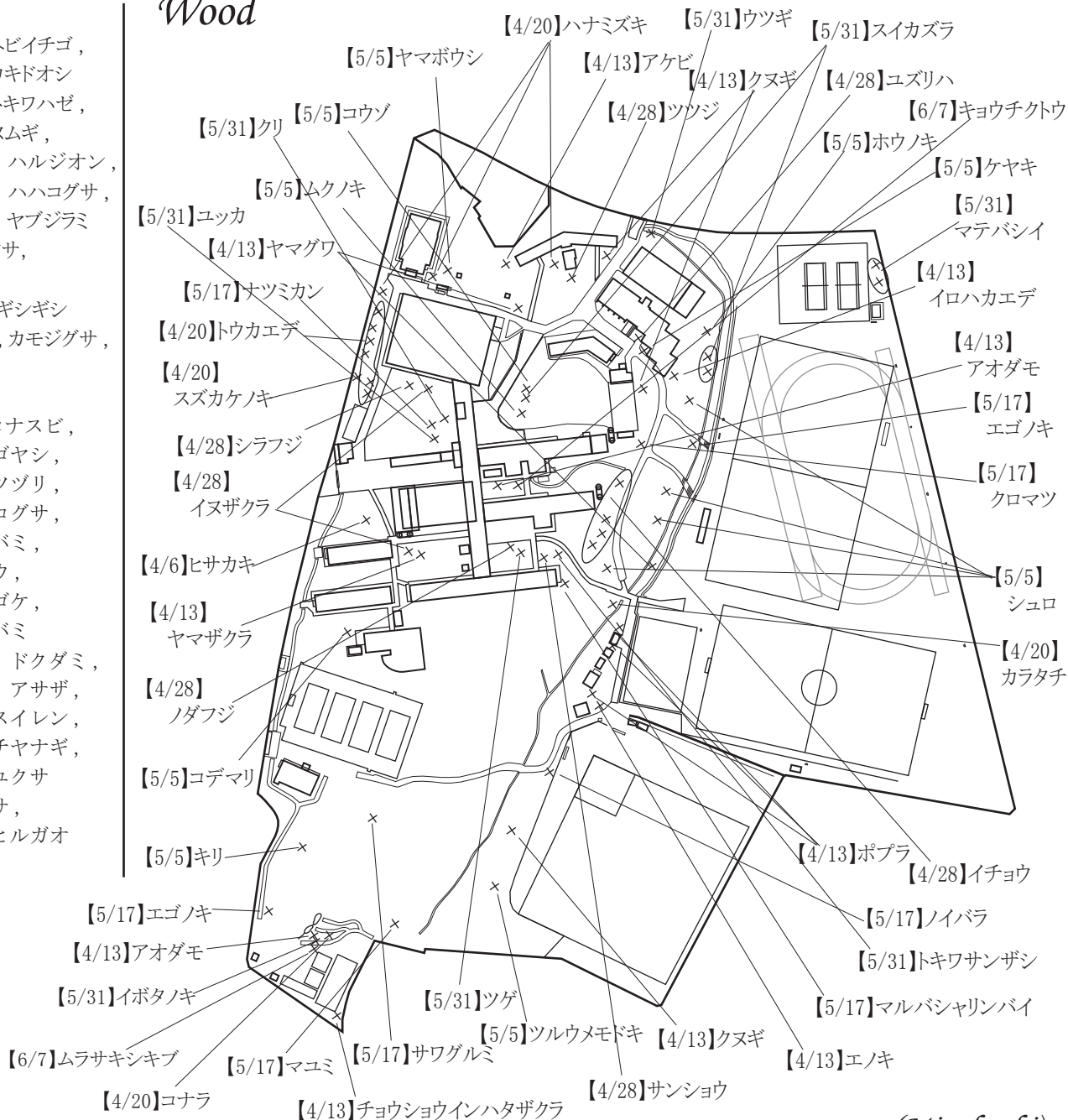
ここ1~2年の間で本校の敷地内でも目立つようになってきた外来種が2種ある。一つはHR棟の南側で人の背丈を超えるほどになる菜の花に似たカラシナ。いま一つはオレンジ色の花を咲かせるケシ科のナガミヒナゲシである。特に後者は花が綺麗なせいか市街地では除草からうまく逃れている。一つの実に2,000粒の種を宿すのに、である。これらに本校も徐々に侵入されるようになった。

[2012年4月~2012年6月までの開花情報]

Grass

- 13.Apr.2012 フデリンドウ, ヘビイチゴ,
マルバスマレ, カキドオシ
- 20.Apr.2012 ヤブニンジン, トキワハゼ,
ヤエムグラ, イヌムギ,
ヤブタバコ, ハルジオン,
シロツメクサ, ハハコグサ,
オランダガラシ, ヤブジラミ
- 28.Apr.2012 オオバコ, ツメクサ,
ヤブタバコ
- 5.May.2012 アメリカフウロ, ギシギシ
ツボミオオバコ, カモジグサ,
オオジシバリ,
フタリシズカ
- 17.May.2012 コヒルガオ, コナスビ,
ノビル, ウマゴヤシ,
シバ, ノミノツツリ,
ウラボシ, チコグサ,
ムラサキカタバミ,
ニワゼキショウ,
ムラサキサギゴケ,
オッタチカタバミ
- 31.May.2012 ヒメジョオン, ドクダミ,
ハキダメギク, アサザ,
イヌガラシ, スイレン,
アカバナ, ミチヤナギ,
シバクサ, ツユクサ
- 7.Jun.2012 トキワツユクサ,
タケニグサ, ヒルガオ

Wood



(Miyahashi)

この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。

執筆・担当区分	動物・環境	井澤 智浩 (Izawa)
	鳥類・植物	速水 淳子 (Hayami)
	天文・気象	樋口 聡 (Higuchi)
	植物・地質 他[&発行責任]	宮橋 裕司 (Miyahashi)
	編集	荒巻 知子 (Aramaki)